

● 草の根パートナー型

平成23年度第2回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	インドネシア
2. 事業名	ジャワ島中部メラピ山周辺村落におけるコミュニティ防災力向上
3. 事業の背景と必要性	<p>メラピ山は、災害被害規模の観点からみて、インドネシアで最も危険な火山である。2010年には大噴火を起こし周辺社会に大きな被害をもたらした。また、大量に噴出した火山破砕物は土石流や洪水などの二次災害も頻発させており、その影響は2014年頃まで継続するとみられている。また、過去の噴火頻度を顧みれば、メラピ山が近い将来に大規模な噴火を発生させる可能性は極めて高い。</p> <p>特定非営利活動法人エフエムわいわいと現地パートナーのCOMBINE Resource Institution (CRI) は、事業実施地域にある一部のコミュニティラジオ局などとともに、地域の防災力の向上に関する幾つかの先行事業を行ってきた。両団体は、これまでに培ってきたノウハウやネットワーク、そしてコミュニティラジオ局をはじめ、様々な地域の資源を有機的に組み合わせ、それぞれの力づけを行うことで、メラピ山周辺の地域社会の防災力を大きく向上させることが可能であると考えている。そして一刻も早く事業を実施することが事業実施地域の住民の命と暮らしを守ることになる。さらに、このような事業を通してコミュニティ防災のモデルを構築し、全土に700局以上のコミュニティラジオがあるインドネシアの他の地域に提示していくことも重要な意義を持つと考えている。</p>
4. プロジェクト目標	ジャワ中部メラピ山周辺村落のコミュニティ防災力が向上する。
5. 対象地域	メラピ山周辺地域（中央ジャワ州、ジョグジャカルタ特別州）の6村
6. 受益者層（ターゲットグループ）	メラピ山周辺地域の住民、コミュニティラジオ、行政機関
7. 期待されるアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティラジオが村落の住民に火山噴火に対応した十分な災害情報や防災の知識を提供できるようになる。 2. 村落の住民の火山噴火に対応できる防災のスキルや知識が向上する。 3. 災害救援や防災活動に関わる者同士のコミュニケーションが密となる。 4. 村落の住民が災害の記憶を風化させずに主体的かつ継続的に防災活動を行うようになる。 5. 行政の防災施策が村落の住民のニーズや要望に沿ったものとなる。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティラジオ局の活動スタッフ向けの運営・技術研修、指導を実施し、災害時音声素材集・防災番組の制作と放送指導、ラジオ番組のコンテスト等を実施する。 2. コミュニティ自主防災組織を6村で結成し、研修・訓練を実施し、日本のコミュニティ防災の取り組みを学ぶ。 3. コミュニケーション力向上のためのICT研修を実施し、WEBサイトの運営体制強化とコンテンツ作りの指導を行う。 4. 火山噴火被害を学ぶトレッキングイベントを行い、6村でメラピ噴火周年記念行事・小中学校での防災授業を実施し、その内容を住民に伝えるラジオ番組を放送する。 5. 村落情報データベースを導入し、管理・運用指導を行う。また、運用できる仕組みを構築し、コミュニティで施策などについて対話を図る番組を放送する。
8. 実施期間	2012年10月～2016年3月（3年6か月）
9. 事業費概算額	44,216千円
10. 事業の実施体制	当団体が現地パートナーのCRIとともに、県庁、郷役場、村役場などの行政機関、大学などの研究機関と連携をとりながら事業を実施する。目標達成のため現地に業務調整員と情報支援やコミュニティ防災担当の専門スタッフを配置し、プロジェクトの進捗状況に応じて専門家を派遣する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人エフエムわいわい
2. 活動内容	コミュニティ放送事業、災害の被災者支援・防災力向上事業、国内外のコミュニティメディアとの連帯強化事業、多文化共生のまちづくりに資するイベントの企画、制作、および運営事業、多文化共生のまちづくりに資する研究、教育、啓発事業